

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦) (公表可否)	職名	所属
イツミ ヤスヒロ 稲積 泰宏	男	非公表	准教授	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	博士(工学)	専門分野	ヒューマンコンピュータインタラクション	
学歴	1996年 3月 石川工業高等専門学校電子情報工学科卒業 1998年 3月 富山大学工学部電子情報工学科卒業 2000年 3月 富山大学大学院理工学研究科博士前期課程電子情報工学科修了 2003年 3月 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程集積システム専攻修了			
実務経歴	2003年 4月 神奈川大学工学部助手 2007年 4月 富山大学工学部講師 2010年 4月 石川工業高等専門学校非常勤講師(2年間) 2012年 4月 ベルリン工科大学Telekom Innovation Laboratories訪問研究員(1年間) 2019年 4月 山梨英和大学人間文化学部 准教授 (現在に至る) 2019年 4月 富山大学工学部非常勤講師(1年間)			
受賞歴	2015年 6月 電子情報通信学会通信ソサイエティ英文論文誌活動功労賞			
所属学会	電子情報通信学会 映像情報メディア学会 画像電子学会 IEEE			
特免資格等	2008年 3月 稲積泰宏、木下宏揚、“カラー画像の圧縮符号化方法、復号化方法、カラー画像の圧縮符号化装置および復号化装置、”特開2008-072254			
e-mail	非公表			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

略

教育業績

教育理念、方針、方法	<p>1) 講義型授業は、授業内演習と解説を必ず実施する。</p> <p>2) 演習型授業は、学生の反応を伺いながら進める。</p> <p>3) 演習型授業は、教員の発言時間は最低限にする。</p>
教育能力	<p>(1) 教育方法実践例 多くの担当科目に、アクティブラーニングの要素を取り入れている。</p> <p>(2) 作成した教科書、教材等 特になし</p> <p>(3) 教育方法や実践に関する発表、講演等 特になし</p>
担当授業科目	ICTスキル、基礎ゼミナール、専門ゼミナール、卒業プロジェクト研究、メディアプロジェクトI、メディアサイエンス概論、データサイエンス1、プログラミング1、データアナリティクスI・II、情報数理II
代表的シラバス	<p>データサイエンス1</p> <p>データサイエンス1では、情報を客観的に理解するための確率統計の基礎を、演習を通じて身につけます。特に、確率の概念を理解することで、計算だけではなく、基礎的な統計量の本質を理解します。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 確率の概念について、説明することができる。 2. 基礎的な統計量を理解し、自ら計算できる。 3. 学んだ統計量について、説明することができる。
教育改善活動	<p>メディアプロジェクトIでは、チーム単位で活動をし、毎回の授業で、各チームの代表者が全員に進捗報告を行うことで、学生自らが活発に発言するようになっている。特に、デモを中心とした中間発表および最終発表で学生同士の質疑応答で、活発な議論を行うことができている。</p> <p>データサイエンス1は、学生の学力差があるため、次回の授業範囲をなるべく早く公開し、事前に質問を募集しておくことで、学生が苦手なところを重点的に解説するように試みた。特に、学生は、限定コメントで質問できるため、躊躇せず質問ができている。</p>
教育能力に対する評価	<p>(1) 学生による授業評価 特になし</p> <p>(2) 同僚教員等による授業評価 特になし</p>

研究業績

研究の特徴	通信を介した人と人の関わりについて、ユーザの視点から問題解決をする。
研究経歴	<p>2003年 神奈川大学で、映像の電子透かしに関する研究に従事。</p> <p>2007年 富山大学で、映像情報メディアのQoE評価に関する研究に従事。</p> <p>2019年 山梨英和大学で、主にヒューマンコンピュータインタラクションに関する研究に従事。</p>

研究実績	<p>著書 なし</p> <p>学術論文（詳細は https://cir.nii.ac.jp/ を参照）</p> <p>1) 参沢匡将, 山下和也, 稲積泰宏, 沖野浩二, “Sugarscape型ライフゲームにおける長寿型に関する一考察,” 電気学会学会論文誌C(電子・情報・システム部門誌), 143(1), pp.101-102 (2023)</p> <p>2) 参沢匡将, 山下和也, 稲積泰宏, 沖野浩二, “Sugarscape型ライフゲームに関する一考察,” 電子情報通信学会論文誌, Vol.J103-D, No.4, pp.352-354 (2020)</p> <p>その他の研究活動</p> <p>Program Committee of Human Vision and Electronic Imaging 2023</p> <p>電子情報通信学会CQ研究会専門委員(2016年6月-2020年6月、2021年6月-2023年6月)</p> <p>電子情報通信学会通信ソサイエティ英文論文誌編集委員(4年間)</p> <p>Technical Program Vice Co-Chair of IMQA2014(1年間)</p> <p>画像符号化シンポジウム実行委員(2014年11月-2018年3月)</p> <p>Guest Editor of J. Imaging Special Issue “Image Quality” (2017-2018)</p> <p>電子情報通信学会IMQ研究会専門委員(2011年4月-2019年6月)</p> <p>Publicity Chair of IMQA2016(1年間)</p> <p>電子情報通信学会代議員(2016年4月-2017年5月)</p> <p>電子情報通信学会北陸支部委員(2年間)</p> <p>電子情報通信学会常任査読委員(2015年6月-)</p>
競争的資金採択課題	<p>1) 2022-2024 基盤研究C(研究分担者) “Perceptual and Computational Task-Based Quality Assessment of Driving Video”</p> <p>2) 2020-2022 基盤研究C(研究分担者) “違和感の評価に基づく深層ニューラルネットワークを用いた画像符号化手法の開発”</p> <p>3) 2019-2022 基盤研究C(研究代表者) “ユーザの価値観とコンテキストに基づくQoE評価および自由視点映像への応用”</p> <p>4) 2009-2010 若手研究B(研究代表者) “符号化ノイズを積極的に利用した画像通信に関する研究”</p> <p>5) 2005-2008 基盤研究C(研究分担者) “研究者の役に立つ著作権とセキュリティを考慮した知識の発見と流通に関する研究”</p>
学会等発表・役員参加	<p>学会発表</p> <p>長尾 海杜, チャンドラー デイモン, 稲積 泰宏, “領域検出を用いた点字ブロック識別器の性能評価,” P3-14, PCSJ2022 IMPS2022, 2022年11月.</p> <p>武井 祐馬, 橋本 岳, チャンドラー デイモン, 稲積 泰宏, “物体検出を用いたグレア領域の自動検出,” P3-18, PCSJ2022 IMPS2022, 2022年11月.</p> <p>川除佳和, 稲積泰宏, “Image Retargeting手法でリサイズされた画像に生じる違和感の主観評価および視線計測による要因分析,” 信学技報, vol. 121, no. 133, CQ2021-34, pp. 64-69, 2021年8月.</p> <p>Takumi Fujii, Damon Chandler, Yasuhiro Inazumi, “A Method of Driving Video Enhancement via CycleGAN for Improving Automated Object Detection,” IICST2021, Nov. 02-03, 2021. (BEST PAPER AWARD)</p> <p>Mohit Naidu, Yi Zhang, Liu Hantao, Yasuhiro Inazumi, Damon Chandler, “Quality Assessment of Compressed Driving Videos: Standard vs. ROI-Based Coding,” P-1-21, PCSJ2019 IMPS2019.</p>
共同研究の実績・受託	<p>2017年 月 研究代表者、共同研究、KDDI総合研究所</p> <p>2017年 月 研究代表者、共同研究、EIZO</p> <p>2016年 月 研究代表者、共同研究、KDDI総合研究所</p> <p>2015年 月 研究代表者、共同研究、KDDI研究所</p> <p>2005年 月 研究代表者、共同研究、東京海上日動リスクコンサルティング</p>
大学院生指導	特になし
対研する能力評価	特になし

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	2019年 4月 FD委員会構成員 2020年 4月 学生部・入試広報部構成員 2020年 12月 メディアサイエンス領域領域長(2021.3まで) 2021年 4月 コンピュータシステム担当主任、学生部・入試広報部・附属図書館運営会議構成員 2022年 4月 コンピュータシステム担当主任、入試広報部・附属図書館運営会議構成員
アドバイザー活動実績	特になし
後進育成活動実績	特になし
社会貢献活動	(1)講演会 年 月 (2)出前講座 年 月 (3)公開講座 年 月 (4)学外審議会・委員会等 年 月 (5)その他 年 月

成果と目標

専門的成果	① 歪んだ画像に対する画質評価の問題点が実験的に明らかになった。 ② ノイズが多い画像に対するアルゴリズムの有効性の検証を行った。 ③ 複数の深層学習アルゴリズムの性能評価を行った。
専門的目標	① コンテキストに対応したQoE評価を確立すること。 ② 歪んだ画像を客観的に評価する枠組みを開発すること。 ③ 付加価値を与えるサービス設計について、当事者と議論すること。

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------